

平成23年 第1予算審査特別委員会討論要旨

◎ 新 政 会

新政会を代表し、平成23年度滝川市一般会計予算及び関連議案に対し、その認定を可とする立場で、若干の意見、要望を付して討論いたします。

地域経済の疲弊は、滝川市に限ったことだけではなく、深刻な地域社会問題である中、「滝川市を元気にする40項目の政策」を80%以上達成されたことは評価いたしますが、困窮する市民も多くおられるのも現状であります。

しかし、滝川市民の長年の懸案事項であったJR滝川駅跨線橋エレベーター設置実現に取り組まれたことを高く評価いたします。

さらに、滝川市が推進する施策が通り一辺倒のものにならないよう、市民に対し納得のいく予算執行となることを強く要請いたします。

また、農業開発公社粉飾決算の問題など、市役所の信頼がまた失墜したことについては猛省を求め、市民生活の向上と市民が安心できる滝川市をつくることを要望するものです。

(歳 入)

地方交付税・臨財債の合計が減少し、限られた財源の中で、市税収納率増に取り組まれたことは評価いたしますが、これらの財源を積極的かつ効果的な経済活性化につながる予算執行となることを要望します。

(歳 出)

1. 総務費

新年度に向けての骨格予算において、新たな事業として外国青年招致事業でモンゴル人国際交流員の配置計画に取り組まれることは、国際化社会の中で必要なことでありますが、その活用法には十分な計画を立てられたい。

公益財団法人の認定を受けた「そらぷちキッズキャンプ」の積極的支援を評価します。

2. 民生費

市民の経済状況と市の財政力を総合的に判断され、保育料の全階層に対し一律10%減額されたことを評価します。

3. 衛生費

環境にやさしいまちづくり推進のため、ごみ減量化リサイクルの推進に取り組まれたことを評価するとともに、25年度稼働に向けた新たな可燃ごみ焼却施設に期待します。

4. 労働費

緊急雇用創出推進事業、重点分野雇用創造事業等の雇用対策に係る国の交付金事業を最大限に活用され、さらなる雇用拡大施策を要望します。

5. 農林業費

国の交付金を活用され、日本一の栽培面積を維持し、新たな商品開発に取り組まれた菜種については評価いたしますが、その販路拡大に努力されたい。

農家負担の軽減を図るためパワーアップ事業を導入され、市独自の補助制度が創設されたことを評価します。

6. 商工費

滝川市中心市街地活性化基本計画を策定され、商店街の活性化に取り組まれる姿勢は評価しますが、その方向性が見えないことや事業の一つ一つに関連性がないことが残念です。

魅力ある商店街形成のために努力されたい。

7. 土木費

老朽化した公営住宅の建てかえや、住宅改修支援補助制度を創設されたことを評価します。

滝川市バリアフリー基本構想を策定し、滝川駅エレベーター設置を実現されたことを評価します。

8. 教育費

文部科学省が推進する事業の成果に期待しますが、滝川市として実情に合った独自の教育方針を打ち出すことも必要と思われます。

日本の国を支える基本となる教育予算については、市費を投じてもしっかり取り組んでいただきたい。

◎ 市 民 ク ラ ブ

市民クラブを代表して、第1予算審査特別委員会に付託されました議案第1号 平成23年度滝川市一般会計歳入歳出予算及びその他関連議案に対し賛成の立場で討論いたします。

暗いニュースが続いた滝川市でしたが、日本一の菜の花、そして横綱白鵬関を観光大使に迎え、市民に明るい夢を与え、モンゴルとの交流を深めたことや、新病院のオープン、市民の長年の念願であったJR駅のエレベーター設置にめどがついたこと、そらぷちキッズキャンプが日本中の方たちから認められ、支援の輪が広がってきているなど多くの夢が実現しつつあります。

このことは職員が一丸となって、信頼回復に努められ、財政健全化が確実に進んでいる結果として評価するものです。

23年度は市長改選期でもあり、骨格予算となっていますが、開西中学校の改築や、図書館の移転、まちづくりセンターなど大きな予算が計上されています。

しかし教育においては、スクールカウンセラーや学びサポーターの配置はされているものの、35人学級の完全実施が図られていません。また、教材、教具など今の時代に即した教育環境の整備など抜本的な見直しが求められます。

厳しい財政の中で、妊婦健診の回数を14回にふやしたことや、保育料の減額など、安心して子供を生み育てられる環境づくりに努められたことは評価しますが、高齢者や障がい者も安心して社会参加ができる町の実現に一層の努力をされることを要望し、以下若干の意見を付して討論いたします。

(歳 入)

1. 財源確保のため、地方交付税、国、道の各種補助金などの活用と確保に引き続き努力されたい。
2. 市税の収納率の向上について評価します。今後も収納率年次計画を確実に実行できるよう徴収体制の強化に努め、自主財源の確保に努力されたい。

(歳 出)

1. 総務費

- (1) 男女共同参画の推進に当たっては、市として推進本部を立ち上げ、年度ごとの推進計画を立てるなど具体的な取り組みを求める。
- (2) そらぷちキッズキャンプに対して一層の支援、協力を市民に働きかける努力をされたい。

(3) 未来へつなぐ市民税 1 % 事業補助について市民の要望を幅広く受け入れられるよう P R に努められたい。

2. 民生費

(1) 老人クラブは会員の減少や会場費の支出などにより運営が危機的な状況にあることから存続のためにも支援の検討をされたい。

(2) バス利用のできない高齢者に対する助成の検討をされたい。

(3) 福祉事業団への施設譲渡へ向けた取り組みを早急に進められたい。

(4) 子育て応援チケットについて再度導入の検討をされたい。

3. 衛生費

(1) 女性特有のがん検診推進事業について無料クーポン券の年齢拡大を検討されたい。

4. 労働費

(1) 緊急雇用創出事業の有効な推進を図られたい。

5. 農林業費

(1) 日本一の作付面積を持つ菜種の栽培に力を入れ、安定した経営と商品開発による付加価値向上の取り組みを強化されたい。

(2) 各種補助対象にならない農業者に対して支援の方法を検討されたい。

6. 商工費

(1) 丸加山のコスモス栽培に力を入れ、菜の花とあわせた花観光事業を大きく展開し、集客を図る努力をされたい。

7. 土木費

(1) 除排雪については、除排雪組合に指導を徹底し雪道の安全確保に努力されたい。

(2) 障がい者や高齢者の門口除排雪については特段の配慮をされたい。

8. 教育費

(1) 35人学級の完全実施に一層の努力をされたい。

(2) 学校の教育環境整備に力を入れるとともに、備品、消耗品費の増額にも努力されたい。

(3) 東栄、東小学校の統合に向けて、児童、保護者の側に立って細心の努力をされたい。

(4) パークゴルフ場建設について検討されたい。

最後に、厳しい情勢の中で予算編成に努めてこられました関係職員の皆様に対し、心より敬意を表しますとともに、小さい声にも耳を傾け、すべての人が、健康で、安心して暮らせる町。さらに、生き生きと生活する活力あるまちづくりを目指して、最善の努力をされますことを祈念して討論いたします。

◎ 公 明 党

公明党を代表し、第 1 予算審査特別委員会に付託されました議案第 1 号 平成 23 年度滝川市一般会計予算及び関連議案のすべてに賛成の立場で討論いたします。

このたびの大震災に際して被災を受けられた方々に心よりお見舞いを申し上げます。

本年度は改選期に当たり骨格予算ではありますが、国政の不安定な状況下の中予算編成に取り組まれた市長を初め、市理事者並びに職員各位に対し心より敬意を表します。

以下若干の意見を付して討論いたします。

1. 総務費

業務の点検をされ、無理、むだをなくす行政改革に努められたい。

2. 民生費

少子高齢化に伴い市民のニーズを踏まえた福祉サービスに努められたい。

3. 衛生費

市民の健康、生命を守るという視点から、さまざまな事業に対し、周知に努められたい。

4. 商工費

各事業の費用対効果をかんがみ努められたい。

5. 土木費

除排雪に対し、可能な限り市民のニーズに努められたい。

6. 教育費

図書館移転に対し、万全の体勢で努められたい。

以上申し上げ、賛成討論といたします。

◎ 日本共産党

私は日本共産党を代表し、議案第1号 滝川市一般会計予算を否とする立場で、その他の議案を可とする立場で討論を行います。

まず初めに、東北太平洋沖大震災の被害は未曾有のものであり、被災者の皆さんの悲しみはいかばかりか、はかり知れないものがあります。そこで被災地の自治体に対して、当市が何をすべきかの議論を、迅速に進めるべきことを訴えるものです。

今回の予算編成予算は、福祉、教育を初めとした住民生活を支える予算でありほとんどの内容については何の問題ありません。特に、約1,260万円の保育料金引き下げ、通級教室を2カ所にする予算、開西中学校新築に5億3,963万9,000円、第三小学校新築基本設計、図書館市庁舎移転に1億2,134万8,000円、少人数学級のために1,024万3,000円、臨時職員の障がい者枠を13にふやすことなど国の交付金事業を含めた雇用対策、プレミアム商品券、滝川駅バリアフリー化に8,410万円、滝川駅前開発ビル活性化ビジョン策定に372万7,000円、消防分団詰所新築設計費を含む一部事務組合等への繰り出し、子宮頸がん等ワクチン接種緊急促進事業に5,125万8,000円、たきかわ菜の花まつり実行委員会補助金50万円、そらぷちキッズキャンプへの支援など市民要求に沿った積極的な内容も含んでいます。また、危険な廃屋に対する市の条例化が近く提案される見込みなども答弁されました。

しかし、以下の点から賛成できません。

反対理由の第1は、滝川ふれ愛の里運営管理に要する経費のうちの株式会社滝川グリーンズへの指定管理代行負担金を増額することです。

問題点の1点目は、株式会社滝川グリーンズの下水道料金が本来の事業所料金でなく浴場料金にした場合の支出が減るということを想定し、下水道料金を変えられないとすることはできないため、258万円ほどを増額するものです。これを市内の事業者が知ったらどう考えるでしょうか。ホテル・旅館業は同じように浴場での上下水道料金の高さに悲鳴を上げ年間に数十万円～数百万円を市に納めています。小売店などはトイレとお茶程度しか水を使わないのに、年間10万円近い上下水道料金を高過ぎると感じています。これらの業者の皆さんが下水道料金の高いことを理由に市が258万円も補助すると知ったらどう思うでしょうか。市長は、下水道料金が不公平にグリーンズにかかっているという主旨の答弁をされました。しかも420円以下の部分があると明確に述べました。そうならば管理代行負担金の増額でなく、下水道料金の減額を下水道特別会計として行うべきです。

2点目は、電気料金分の130万円についてですが、さきの補正予算で反対した理由と同じです。5%の電気料金値上げで指定管理代行負担金を上げるとは、他の61施設での光熱費との関係から不公平です。

3点目は、指定管理に関する取扱要綱に違反する疑いがあります。要綱では、協定の改定という項目で、協定で定めた事項については、指定期間中はみだりに改定しないこと。ただし、特別の事情があるときは、指定管理者と協議して協定の改定をすることができるとし、特別の事情があるときの例としては、次のようなものが考えられる。

- (1) 使用料の額に関する設置条例の規定を改正するとき。
- (2) 開館時間等に関する設置条例の規定を改正するとき。
- (3) 施設の一部を新設し、又は廃止するとき。
- (4) 物価の大幅な変動があったとき。
- (5) 災害が発生したとき

としています。この5点の中で該当する可能性があるのは、物価の大幅な変動だけですが、市民に聞けば全員が、グリーンズだけが物価上昇しているわけではないと答えるのではないのでしょうか。

4点目は、第三セクター株式会社滝川グリーンズに対する財政支援を行うのであれば、指定管理代負担金見直しではなく、第三セクターの改善のためであることを市民に真正面から訴えることが必要ではないでしょうか。

反対の第2は、まちづくりセンターのまちなか移転費2億3,440万4,000円については、市民合意の進め方に疑問があるという点です。

まちづくりセンターを中心市街地に設置することには、何の異論ありません。基本構想、基本設計がないまま、実施設計と建設予算を組むことが異例であることは、答弁で理事者も認めています。しかし、交付金を受けるためには時間がないという答弁では問題です。基本構想を市民に示して意見を問う手続、進め方がない2億円以上の規模の支出では問題です。その他意見を付して討論とします。

1. 総括

- ① 指定管理施設での人件費、施設利用率、接客、災害時対応準備を進めること。

2. 総務費

- ① 公正職務審査会を真に独立した機関として機能させる予算措置を検討すること。
- ② 公共交通機関の存続、利用維持に全力を尽くすこと。
- ③ コミュニティ施設の待機時間の賃金を労働法令に合ったものに統一すること。
- ④ 中島町を初めとした開発行為で造成した市街地に一時停止標識がない問題について早急に改善を道警に求めること。
- ⑤ 市税滞納対策としての預貯金差し押さえは、年金・給与など差し押さえ禁止基準に基づいて改善すること。

3. 民生費

- ① 社会福祉事業団の理事会に対し、信頼できる人事体制とすることを求めること。
- ② 福祉除雪委託費の単価増を検討すること。

4. 衛生費

- ① ごみ袋料金の値上げ計画策定に当たっては、現在の地方自治体及び当市の財政改善状況を踏まえ、十分な時間をかけ議論をつくすこと。
- ② 高齢者見守り事業は、高齢化した地域各団体の実態から、公序の割合を高くしつつ早急に内容を具体化すること。

5. 労働費

- ・ 交付金事業の実施内容を、雇用増大、能力向上とともに、必要かどうか疑わしいものとならないよう、内容を広げること。

6. 農林業費

- ① 農業後継者助成金が活用されるものになるよう、制度の見直しを検討すること。
- ② 株式会社滝川グリーンズの経営状況について、市として調査を早急に行い議会に報告すること。

7. 商工費

- ・ 丸加高原伝習館の利用増に、送迎車両を初め何が必要か、早急に計画をまとめること。

8. 土木費

- ・ 市民ゴルフ場旧ツツジコースの位置づけ、活用策の検討をきちんと行うこと。

9. 教育費

- ① 就学援助費増額の検討を進めること。
- ② 35人学級を全面的実施すること。
- ③ 28年度から他の学校の大規模改修の前倒しを検討すること。
- ④ 温水プールの存続に向け、譲渡条件など早急に決定し、次の段階に進めること。

10. 諸支出金

- ・ 株式会社グリーンズへの貸付金の計画的減額を検討すること。

11. 職員費

- ・ 障がい者の嘱託職員枠を検討すること。

◎ 渡辺 精 郎（市民の声連合）

市民の声連合の渡辺精郎です。

討論に先立ちまして、さきの東日本大地震で亡くなられた方々に哀悼の意を表しますとともに、被災されました方々にお見舞いを申し上げます。

私は第1予算委員会に付託されました平成23年度滝川市一般会計予算案を否とする立場で、その他の予算関連議案は可とする立場で討論いたします。

まずは、この難しい財政予算案作成に努力されました市長・市理事者を初め、関係職員の皆様に対しまして厚くお礼を申し上げます。

さて、一般会計予算に反対する理由を申し上げます。田村市政誕生から8年目を終えるに当たって、地方自治体の長として強気の市政が随所にあらわれてきて、骨格予算とはいえ、田村カラーが予算の全体を覆っていることを指摘せざるを得ないのであります。

現在は、いわゆるタッグプランを実践中でありながら、一方ではタッグプランなどどこ吹く風、派手やかな公共工事が大手を振って多額の予算を使っております。

さて、今回の最大の問題点を指摘したいと思います。それは「まちづくりセンター」の第1パーキングへの移転問題であります。

たとえ、国からの費用が補助金として1億5,190万円が出るからよいのではないかとありますが、しっかりと「まちづくりセンター整備事業債」として1億1,000万円は借金するわけであります。

さらに問題なのは、巨塔市役所の庁舎がありながら、まちづくりセンターが、まちなかに出て行く必要があるのでしょうか。交流スペース・料理教室などの多機能スペースを兼ね備えるとのことですが、現在、そのような機能を持ったのが公民館やコミセンであり、公民館さえ利用減を嘆く時代であります。まちづくりセンターが市長の公約であっても、広い市役所を有効利用すべきであり、さらには、スマイ

ルビルの空きスペースでも可能のはずです。そして、市民や町内会等のまちづくりのセンターは各地域にある立派な公民館やコミセンの有効利用であります。

そして、もう一つの問題点は、第三セクターの処分を市で買い受けて処理しようとする慣例が定着させるということでもあります。第三セクター問題は続きます。滝川ふれ愛の里運営管理の費用が、2～3年で2,000万円程度多くなっています。先日の補正予算に関連して、随分な思いやり予算ではないでしょうか。滝川市がこのような思いやり予算を配置するところになりますと、その第三セクターは経営が斜陽線をたどっている証拠であり、近い将来必ず厳しい状況に陥ることを予測しないわけにはいきません。

財政援助は有効なことは少なく、こうしているうちに、ふれ愛の里の運営は厳しくなり、第三セクターのたどる運命が待ち構えているのではないのでしょうか。

それは、丸加高原伝習館も同じことで、うわさではあっても管理代行負担金を当てにした経営姿勢は市民の怒りを買っております。

私の所属する団体も、毎年忘年会を丸加高原伝習館で20年間も続けていきましたが、ことしからやめてまちなかで忘年会をすることになりました。普通の業者であれば、「毎年ご利用ありがとうございます。ことしもご利用を」というはがきぐらい来ます。

問われているのは、この管理代行業者というよりも、この業者を選定し、監督する滝川市の姿勢ではないでしょうか。

予算がない、お金がないので無理だと縮小、減費目が多いという中で、市立病院の改築後も大型公共工事が必要となるいびつな予算になったことも賛成できないのであります。

ただいまタッグプランの真っ最中です。どの費目も数万円、数千円の単位で四苦八苦しながらの予算編成だったと思います。そういう情勢の中で、今の緊縮財政時であっても、古くなった学校は改築の時期が来ております。

教育費シーリング枠については準聖域扱いにしていきたいのであります。

学校教育費の増減率は校舎等の改修費の増減で一概に論ずることはできません。しかし、私が教育費のバロメーターにしておりますのが、児童生徒の学力に最も密接な「教材・教具費」であります。学力の低下、テストの得点の低さが云々されておりますが、せっかく画期的ですばらしいと評価しております市負担教員採用や、学びサポーター教育をしてもムチを振り振り、電子黒板だけでは、決して学力が向上しないのであります。その意味で、学力向上ということと「教材・教具費」をふやすという施策との整合性がないことは残念です。元中学校で理科免許の私は、理科実験器具、消耗薬品や近代的教具を整える必要性を訴えています。現代教育の成果は、教員の熱意と児童生徒のやる気とともに、教科にマッチしたすばらしい「教材・教具」が必要なのであります。パソコンがあればそれでよいというものはありません。

元教員としての現場体験から「教材・教具費」の増額を訴え続けておりますが、一方では、学力低下を質問する議員もいるわけですから、これの大幅改善で学力向上の一助になればと思います。

予算審査の答弁で、「教材・教具費」の増額をさらさら考慮する気もないという教育長は学力向上策の片りんもないことの証明であり、職を賭して責任を負っていただきたいと思います。

保護者も教育費が大変かかります。比例して自治体にも教育費は重要なのであります。いつも私の主張であります。道路工事は中止しても、子供の成長は中断できないのです。滝川の百年の大計は教育にあるのであります。教育王国滝川の名を回復するためにも行政面からの純粹の学校教育費、「教材・教具費」などの直接教育費などの条件整備に努力されることを望むものであります。以上市民の声連合の討論といたします。